

特集 忘れてはいけない

戦争の記憶を未来へ



写真：応召者の歓送の様子

日の丸の国旗を持ち、駅まで見送りをしていました。

今年は戦後79年です。

戦争体験者や戦死した兵士の遺族の高齢化が進み、戦争の記憶の風化が危惧されています。

日本が戦争をしていた時、東秩父村（旧大河原村、槻川村）でも戦争の影響を大きく受け、戦地に立ち、命を落とした方もいました。

戦争とはどのようなものだったのか。

本号特集では、戦争によって家族を失った遺族の方に話を伺い、当時の様子を今を生きる若い世代に届けます。

戦争で

平和は作れない

この平和な日本でも79年前に戦争が起きていたことをご存知でしょうか。授業で習った、または人から聞いた、と人それぞれだと思えます。

今ではその事実が段々と人の心や記憶から薄れ、消えかけようとしています。

戦争とは、一度起れば、尊い命が失われ、どんな人やものも否応なしに巻き込まれる可能性のある、とても恐ろしいものです。

今なお、世界では紛争やテロが続発し、核兵器の脅威も消えることはありません。

今年で終戦から79年目を迎え、戦争を知る人が少なくなる今、その記憶を後世に語り継いでいくことが、平和な未来を築くためにできる一歩です。

一人ひとりの幸せや繁栄は、平和の上に成り立っています。

戦争が起きない平和な世界が続くよう、平和の輪を広げていきたいと切に願います。